

## 森林計画学会2013年度総会報告

日時：2013年3月28日(木)

場所：岩手大学

### 2012年度事業報告

溝上事務局長から以下の通り報告があり、了承された。

1. 春季国際シンポジウムおよび総会を宇都宮大学において開催した(3月29日)。
2. 夏期セミナーを東北大学川渡フィールドセンターにて開催した(8月29日～31日)。
3. 林業経済学会との連携シンポジウムを開催した(9月26日)。
4. 学会誌(和文誌45巻1号・2号、46巻1号・2号、英文誌Vol.18、No.1)を発行した。
5. 学会ニュースを発行した(2012年度1号～8号)。
6. 日本農学会に参加し、役員として評議員・白石則彦氏、運営委員・吉本敦氏が参画した。
7. JABEE(日本技術者教育認定機構)に参加した。
8. 森林・木材・環境アカデミーに参加した。
9. 2012年度森林計画学会賞の選考を行った。

#### 【森林計画学賞】

該当者なし

#### 【黒岩菊郎記念研究奨励賞】

受賞者：光田 靖(宮崎大学)

受賞業績：基準・指標の理念に基づく森林計画手法に関する検討

発表媒体：森林計画学会誌 42: 10-14, 2009

#### 【南雲秀次郎記念学生奨励賞】

受賞者：山田 祐亮(東京大学)

受賞業績：Examination of Maximum Sustainable Timber Yield Based on a Profitability Simulation

発表媒体：Journal of Forest Planning 18: 1-11, 2012

#### 【南雲秀次郎記念学生奨励賞】

受賞者：守屋 智之(東京大学)

受賞業績：GISとAHPを用いた間伐優先度の決定方法

発表媒体：森林計画学会誌 46: 57-66, 2013

10. 関連する研究集会・シンポジウムを共催した。

Joint International Symposium By Japan, Korea and Taiwan 2012 “Sustainable Forest Ecosystem Management in Rapidly Changing World” (2012年9月12日～14日、台湾・国立宜蘭大学)

International Symposium - FORMATH FUKUSHIMA 2013 - “Forest Resource Management and Mathematical Modeling” (2013年3月13日～15日、いわき明星大学)

International Seminar “Mathematical Modeling for Issues on Ecosystem Services - Theory & Applications -” (2013年3月18日、統計数理研究所)

11. 理事会の開催

E-mail等により理事会を合計4回開催し、本会の運営に関わる重要事項を審議した。

第1回理事会(メール審議) 2012年4月3日～4月13日 学生奨励賞に関する規定等について

第2回理事会(メール審議) 2011年10月7日から14日 学生研究コンクールの実施要領、表彰委員会規程、編集委員会規程および投稿規程の改定について

第3回理事会(メール審議) 2013年2月12日～2月14日 学会賞の選考結果について

第4回理事会 2013年3月27日 総会議案について

## 2012 年度会計決算報告

光田会計担当理事より別表の通り報告があり、了承された。

## 2012 年度会計監査報告

國崎、藤原両監事より会計監査の結果、学会の会計は問題ない旨の報告があり、了承された。

## 2013 年度事業計画案

溝上事務局長より以下の通り計画案が示され、了承された。

1. 春季国際シンポジウムおよび総会を岩手大学において開催する（3月28日）。
2. 夏期セミナーを台湾・韓国との国際共同シンポジウムとして、鹿児島大学および屋久島にて開催する（9月5日～7日）。
3. 学会誌（和文誌 47 巻 1 号・2 号、英文誌 Vol.18、No.2（FORCOM2011 特集号）、Vol.19、No.1・No.2）を発行する
4. 学会ニュースを発行する。
5. 学会ホームページを管理運営する。
6. 2013 年度森林計画学会賞を選考する。
7. JABEE（日本技術者教育認定機構）に対応する。
8. 森林・木材・環境アカデミーに対応する。
9. 日本農学会に参画する。
10. 学会プロジェクトを推進する。
11. 関連する研究集会・シンポジウムなどを支援する。

## 2013 年度会計予算案

光田会計担当理事から別表の通り予算案が示され、了承された。

## 各委員会報告

企画運営委員会（吉本理事）、和文誌編集委員会（近藤理事）、英文誌編集委員会（井上理事の代理として近藤理事）、表彰委員会（平田理事）、広報委員会（齋藤理事）より活動状況報告があった。

## その他

溝上事務局長から、電子ジャーナル化等、今後の改革について理事会で議論を進めていく旨の説明があった。その際、光田会計担当理事より、参考資料として単年度収支の状況が紹介され、現状では繰越金が増加傾向にあること、また、仮に正会員会費を現行の 8000 円から 4000 円に引き下げても収支が赤字にならないこと等が示された。これらの状況を踏まえ、学会費を有効に活用するための今後の改革の方向性について総会参加者からの意見が求められ、以下の発言があった。今後は、これらの意見に加え、メールニュース等を通じて広く意見を聴衆しながら、理事会での議論を進めていくこととなった。

- 会員が減少傾向にあるなかで、会費は下げない方がよいのでは。
- 特に和文誌では冊紙体は残すべきでないか。
- 他の学会を主な活動の場としている会員の維持・拡大を計るには、会費の引き下げは有効ではないか。
- IUFRO 集会などの企画運営用の基金として使用できるのでは。
- 研究会開催補助のような一時的なものでなく、恒久的な効果があるような利用が重要ではないか。
- 和文誌・英文誌の両編集委員長の負担を鑑みれば、編集業務の外注もあるのではないか。